

定期外接種（おたふくかぜ等）のワクチンを受ける方へ

説明を読んで、効果や目的・副反応・健康被害発生時の救済制度など理解の上、接種を受けてください。

2020年10月1日

1. 一般的な注意事項

● 予防接種を受けるときの注意

- ・ 予防接種の効果や副反応について不明な点がある場合は、予防接種を受ける前に医師に相談しましょう。
- ・ 当日は体調をよく観察して、普段と変わったところのないことを確認してください。
- ・ 予診票は医師への大切な情報です。正確に記入するようにしましょう。書き漏れのないように。
- ・ 予診票項目によっては、医師と相談して接種を決めることもあります。
- ・ 予防接種を受ける方がお子さんの場合、「母子手帳」を持参してください。

● 予防接種を受けることができない人

- ・ 明らかに発熱のある人（37.5℃以上）
- ・ 重篤な急性疾患にかかっていることが明らかな人
- ・ 過去に接種ワクチンに含まれる成分で、アナフィラキシーを起こしたことがある人

● 予防接種を受けたあとの注意

- ・ 接種後30分間はよく様子を観察しアレルギー反応などがあればすぐに連絡を取れるようにしましょう。
- ・ 接種後 2～3 週間は、副反応の出現に注意しましょう。
- ・ 接種当日の入浴は差し支えありませんが、注射した部位をこすることはやめましょう。
- ・ 接種当日は接種部位を清潔に保ち、はげしい運動は避けましょう。
- ・ 高熱やけいれんなどの異常な症状が出た場合は、速やかに医師の診察を受けてください。

● 健康被害時の救済について

「定期外接種」により健康被害が発生した場合には「医薬品副作用被害救済制度」により治療費等が受けられる場合があります。詳しくは独立行政法人医薬品医療機器総合機構のホームページ（<http://www.pmda.go.jp>）等をご覧ください。

2. おたふくかぜワクチンの効果や副反応、注意点について

おたふくかぜワクチンは弱毒生ワクチンで、身体の中でワクチンウイルスが増え、抗体ができます。抗体はワクチン接種を受けた90%前後の人にでき、おたふくかぜに対する免疫はワクチン接種後2週間からできます。おたふくかぜの潜伏期間にワクチン接種を受けても、特におたふくかぜの症状が重くなるようなことはありません。

副反応としては、接種後2～3週ごろに、発熱、耳下腺の腫れ、嘔吐、せき、鼻汁等の症状があらわれることがあります。これらの症状は通常数日中に消失します。また、接種後3週間後に、発熱、頭痛、嘔吐等の症状が見られる無菌性髄膜炎が数千人に1人程度の頻度、接種後数日から3週間後に紫斑、鼻出血、口腔粘膜出血等症状の見られる急性血小板減少性紫斑病が100万人に1人程度の頻度であられることがあります。またまれに難聴、精巣炎があらわれたとの報告があります。接種後（30分間程度）にショック、アナフィラキシー様症状（蕁麻疹、呼吸困難、血管浮腫等）がまれにみられることがあります。

◎対象1歳以上。接種回数2回。1回目1歳で、2回目は年長で。この年齢以外の方の接種間隔に厳密な決まりはありませんが、1回目から3年くらいあけて2回目を予定しましょう。

